

検 定 種 目 (合格率)	◎ 良かった点 ( 成果 )	× 悪かった点 ( 課題 )
①ブルークボーゲン  68.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目の理解が深まり、滑走プルークにつながる外スキーのとらえを表現することが出来ていた。</li> <li>・特にターン始動期での適度な外向傾姿勢の意識は高く、的確な脚の屈伸運動が出来ている受検者が多く見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重心がターン内側に移動しすぎて、内スキーがフラットになってしまう。</li> <li>・ニュートラルポジションの意識が薄いため、ターンのつなぎの部分にメリハリが見えない。</li> <li>・ゴールまで両スキーの内エッジをキープ出来な等々の課題点も散見された。</li> </ul>
②滑走プルークから基礎パラレルターンへの展開  74.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外脚の捉えが良い。</li> <li>・展開がスムーズ。</li> <li>・リズムに流れがあった。</li> <li>・基礎パラレルへのつながりが良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滑走プルークになっていない。</li> <li>・ターン中にスタンス変化が見られた。</li> <li>・ターン弧やスペースの取り方、バランスが悪い。横を向き過ぎる。</li> <li>・体のローテーションにより、外脚に荷重出来ていない。</li> <li>・スキーの形シルエットにとらわれ、外スキーへの働きかけがされていない。</li> <li>・腰折れによる荷重が出来ないポジションが見られた。</li> </ul>
③基礎パラレルターン小回り  85.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム感があり良好</li> <li>・スピードコントロールが出来、等速で滑っていた。</li> <li>・片斜面においてもフォールラインを崩さず滑っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両脚の同調運動が不十分。</li> <li>・センターポジションの理解不足。</li> <li>・内倒になっている受検者が多い。</li> <li>・上体からの先行動作が目立つ</li> </ul>
④横滑りの展開  72.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した横滑りによるスピードのコントロールがされていた。</li> <li>・種目に求められている素早い切り替え、リズム変化については理解が深まっていると感じられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上半身と下半身の連続したひねり動作についての表現が乏しく、板の方向に正対する方が多く見られた。</li> <li>・切り替え時のシュテム動作も散見された。</li> </ul>
⑤シュテムターン  78.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開き出しから荷重までスムーズに出来ていた。</li> <li>・斜面に合ったターンを描いていた。</li> <li>・ターン早期からカービングで舵取りが出来ていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストックのタイミングが合っていなかった。</li> <li>・スムーズなシュテム動作が取れていなかった。</li> <li>・開き出しと同時に体が内向するポジションが多かった。</li> <li>・ターンサイズが小さくなっていた。</li> </ul>
⑥パラレルターン大回り  70.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目の要領を理解してとても積極的に滑ることが出来ている受検者が多く見られた。</li> <li>・特にカービングでの回し込みでスピードと回転弧をコントロールする技術は目を見張るものがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピードと回転弧の大きさに合わない内傾過多や内倒が見られた。</li> </ul>
⑦パラレルターン小回り(不整地)  87.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的にスピードコントロールが出来ていた。</li> <li>・雪面コンタクトがしっかりなされていた。</li> <li>・不整地の中でもしっかりターン弧を描いていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部シュテム操作が見られ、同調運動が出来ていない。</li> <li>・一部後傾になり、後半暴走気味であった。</li> <li>・ストックワークが不十分であった。</li> </ul>
⑧総合滑降・リズム変化  86.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カービング要素の多い滑りで、滑走性が良好。</li> <li>・リズム変化をしっかり表現していた。</li> <li>・力強いエッジングであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外脚のとらえが軽く、内倒が目立った。</li> <li>・スキディング要素が強く、滑走性にかける方も数名いた。</li> <li>・後傾によりトップからとらえる事が出来ていない。</li> </ul>